

〇〇科 学習指導案

〇〇立〇〇高等学校
 指導教諭 〇〇〇〇先生
 授業者 〇〇〇〇

- 1 日 時 令和 年 月 日 (〇 曜) 限 (: ~ : , 分)
- 2 指導学級 〇〇科 年 組 人 (男子 人, 女子 人)
- 3 教科・科目 〇〇・〇〇
- 4 使用教材 教科書 〇〇〇〇 (出版社 〇〇〇〇)
副教材 〇〇〇〇 (出版社 〇〇〇〇)
- 5 単元名 第 章 〇〇〇〇
- 6 単元の目標 〇〇・・・・
- 7 生徒の実態
〇〇・・・・
- 8 単元の評価規準 (評価の観点別の「おおむね満足できる」状況)
(国立教育政策研究所教育課程研究センター「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を参照のこと)

※ 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
---------	----------	---------------

9 単元の構成 (全 時間)

時 間	目 標	学 習 活 動
1		
2		
...		

10 本時の目標
〇〇・・・・

11 本時の展開

※ 知: 知識・技能 思: 思考・判断・表現 主: 主体的に学習に取り組む態度

時 間	教師の働きかけ	生徒の活動	指導上の留意点・評価
導 入 (分)			
展 開 (分)			
ま と め (分)			

12 本時の評価

評価規準	「努力を要する」状況と判断される例	指導の手立て
------	-------------------	--------

国語科学習指導案

- 1 日 時 令和 年 月 日() 限
 2 指導学級 普通科 1年 組 人
 3 教科・科目 国語・言語文化
 4 使用教材 教科書 大修館書店『新編 言語文化』
 5 単元 現代文編「羅生門」
 6 単元の目標

- (1) 本文中の語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにすることができる。〔知識・技能〕
 (2) 文章を読んで、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や展開などについて自分の考えを深めることができる。〔思考・判断・表現〕
 (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。〔主体的に取り組む態度〕

7 生徒の実態

静かな生徒が多く、授業に集中して学習に取り組む雰囲気がある。一方、学習に対してやや受け身な面もあるため、自分の考えをクラス全体に発表できる生徒は少なく、授業者が導く解答を受動的に待っているだけの様子も見られる。他者と意見を交わす過程で、自分の考えを客観化しながら深めていく態度を養わせたい。また、文章中に表れた登場人物の心情の変化を正確に捉えることで、小説の面白さを味わい、主体的に思考できる態度の育成を目指している。

8 単元の構想

小説「羅生門」は、長年にわたり高等学校の定番教材として扱われている作品である。極限状態に置かれた登場人物が、目前の状況に応じて感情を変化させ、独自の論理を展開するところに本教材の面白さがある。できるだけ生徒自身の興味関心や疑問点を引き出しながら、読解力や表現力の向上を図りたい作品である。

本時では物語全体を学習したあとで、グループ内で意見交換を交わしながら教材の主題を読み取り、自らの思考を深める態度を身につけることをねらいとしている。

9 単元の評価規準

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に取り組む態度(態)
本文中の語句の意味や用法を理解し、語彙を豊かにしている。	「読むこと」において、内容や書き手の意図を解釈し、文章の構成や展開、表現のしかたや特色について理解している。	登場人物の人物像や心情を読み取ることに興味を持ち、作品の主題を理解しようとしている。

10 指導と評価の計画(全8時間、本時は太枠)

時	主たる学習活動	知	思	態	評価方法
1	○作者と作品について学習し、短編小説の特色を理解する。 ○全体を通読し、四段落に分ける。 ○朗読CDをしっかりと聞く。	○			行動観察 記述の点検
2	○書き出しの効果を考える。 ○場所や時間、語り手、登場人物などについて書き出す。 ○平安時代の京都の事情について理解し、下人が解雇された関係を把握する。	○	○		質疑応答 ペア活動
3	○下人が各場面でどのような行動を取っているか理解する。 ○行動と共に推移する心情を考える。 ○比喩についての表現効果を考える。		○	○	ペア活動 ノートへの取り組み
4	○羅生門の上にいる老婆の様子や描写について理解する。 ○「六分の恐怖と四分の好奇心」について、どういうものであるか考える。		○	○	ペア活動 プリントの点検
5	○下人の行動と心理の変化について、具体的な描写で確認しながらまとめていく。 ○老婆に関する比喩の表現効果を理解する。		○	○	質疑応答 ペア活動
6	○老婆の論理について順を追って理解する。 ○老婆の話聞いた下人の心理の変化をまとめる。		○	○	質疑応答 ペア活動

	○老婆との対応によって下人の心理が変化することに気づく。				
7	○下人が老婆の着物を剥ぎ取るに至った論理をまとめ、またその意味について考える。 ○最後の一文についての表現効果を考える ○『今昔物語集』との共通点や相違点を考える	○	○		質疑応答 ペア活動 グループ活動
8 本時	○羅生門の本文全体を振り返る。 ○主題について、ジグソー法を使ってグループで話し合い、自分の考えをまとめる。		○	○	質疑応答 ペア活動 グループ活動

1 1 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価の観点と方法
導入 (8分)	・NHKforschoolの動画「羅生門」を視聴し、本文全体の内容を再度確認する。	・本時の活動に興味を持てるよう促す。	・動画を視聴し、積極的に授業に臨んでいるか行動観察をする。
展開1 (15分)	・小説「羅生門」はどういう物語か最初に個人で考える。	・生徒の取り組みを観察する。進捗を確認しながら適宜声かけをする。	・仲間と積極的にコミュニケーションが取れているか行動観察をする。
展開2 (15分)	・ロイロノートを活用しながら、「下人」「老婆」「羅生門」のそれぞれ3つの存在をジグソー班3人で分担して考えることを理解し、エキスパート活動に入る。 ・エキスパート活動を行ったのち、元のジグソー班に戻り、活動で話し合った内容をワイチャートで共有しながらワークシートを完成させる	・協力的に出来ていないグループに適宜声かけをして行動を促す。 ・ジグソーグループで新たに得た考えを中心に対話活動を行う。	・協力的に自分の役割を果たしているか、行動観察をする。また、内容を的確に読み取り解答できているか、タブレットへの書き込みを見て声かけをする。
まとめ (17分)	・いくつかのグループの生徒が、ジグソー活動でどのような意見が出たのかを発表し、全体で共有する。 ・最後に個人で考えた内容をワークシートに書き入れる	・発表するグループの解答を集中して聞き、自分のグループとの共通点や相違点を探す。よい表現があれば書き留めておくように指示を出す。 ・個人シートに記入させ本時のまとめをする。	・内容や構成、表現、論理の展開などについて評価するとともに自分の考えを深めているかワークシートの記述内容を評価する。

1 2 本時の評価

評価規準	A 十分満足できる B 概ね満足できる C 努力を要する	
グループワークでの活動をとおして、自分の言葉を使って思考を深めさせる。	A	「羅生門」の主題について根拠をあげて考えを述べることができる
	B	「羅生門」の主題について、考えを述べるができる。
	C	「羅生門」の主題について、考えを述べるができない。
	Cと判断される生徒に対する指導の手立て	
	個別に声かけをして、解答できるような環境を作る。	

◆白抜きの箇所における登場人物の心の中のセリフを想像してみよう。
また、そこでは、登場人物たちはどのような気持ちでいるかを考えてみよう。

1 帥殿の、南院にて、人々集めて弓あそびしに、

2 この殿わたらせ給へれば、

← (1)が①ポイント。助詞「と」があるから、誰の心中語かわかるはず。そこで何をどのように思ったのか？

3 思ひかけずあやしと、中関白殿思し驚きて、いみじう豊成し申させ給ひて、



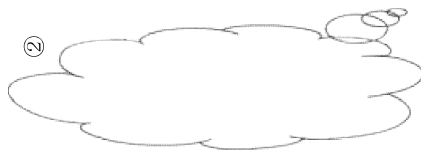
①
気持ち

4 下藁におはしませど、前はに立をて奉りて、まづ射させ奉らせ給ひけるに、

5 帥殿、矢数いま二つ劣り給ひぬ。

なぜ、このように言うのか？ 道長と伊周の関係は？
←そして、御前に候々人々も「これも手筋かりになる。」

6 中関白殿、また御前に候ふ人々も「いま二度延ぐさせ給へ。」申して、延ぐさせ給ひけるを、



②
気持ち

← (2)が③ポイント。なぜ、このように思ったのか？

7 やすからず思しなりて、ぞらば延ぐさせ給へ。」と仰せられて、

③

③
気持ち

8 また射させ給ふして、仰せらるるやう、

9 道長が家より帝、巨立ち給ふぐまものならば、「この矢当たれ。」と仰せらるるに、



④
気持ち

← (4)ポイント。ものは終助詞／強い感動・詠嘆を表す。

10 同じものを中心には当たるものは。



⑤
気持ち

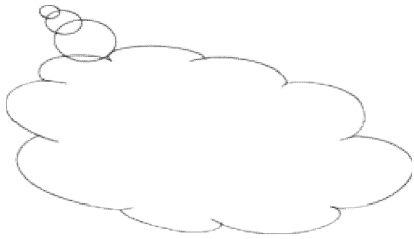
チーム名()

班員

- ・道長 ① | |
- ・伊周 ② | |
- ・道隆 | |
- ・語り手 |

1 登場人物のセリフ及び心情をグループでまとめてみよう。

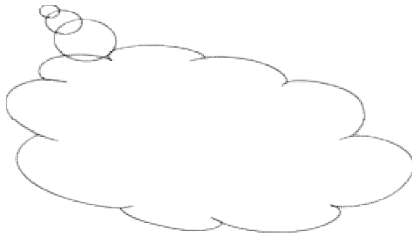
① ()



①

気持ち。

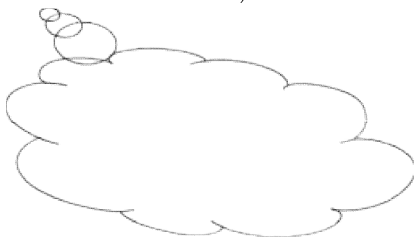
② ()



②

気持ち。

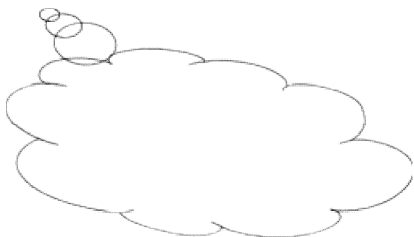
③ ()



③

気持ち。

④ ()



④

気持ち。

地理歴史科 学習指導案

〇〇〇〇 高等学校
指導教諭 〇〇〇〇
授業者 〇〇〇〇

1. 日 時 令和4年5月25日（水）3限 10:50～11:40（50分）

2. 指導学級 トップ英進部 2年1組（男子7人 女子25人 計32人）

3. 教科・科目 地理歴史・日本史B

4. 使用教材 教科書 詳説日本史B（山川出版社）
副教材 詳説日本史図録（山川出版社）
日本史頻出史料165（山川出版社）
新日本史要点ノート[応用編]（啓隆社）

5. 単元（題材）名

第2章 律令国家の形成 2 律令国家への道 民衆の負担

6. 単元の目標

- 飛鳥から奈良時代にかけての政治の動向及び社会・文化の特色についての基本的な事柄を東アジア世界との交流と関連付けて概観し、その知識を身に付けた上で諸資料を活用して歴史的事象の探究方法を身に付けることができる。（知識・技能）
- 飛鳥から奈良時代にかけての政治の動向及び社会・文化の特色から課題を見出し、東アジア世界との交流と関連付けて多面的・多角的に考察した過程や結果を適切に表現することができる。（思考・判断・表現）
- 飛鳥から奈良時代にかけての政治の動向及び社会・文化の特色を意欲的に捉え、東アジア世界との交流と関連付けて課題を見出し、その解決に向けて主体的に追求しようとする。（主体的に学習に取り組む態度）

7. 生徒の実態

男子7名、女子25名と男女比率の差はあるものの普段の生活は男女ともに仲が良く活気に満ちているが、授業となると自ら発言をする生徒はほとんどみられない。しかし歴史的事象に関する興味・関心は比較的高く、生徒の好奇心を刺激する発問に対しては積極的な姿勢をみせる。知識・理解度を深めるために、班別学習に重点を置

き、相互の意見交換等を通じて主体的・対話的な学習により、学びを深める授業実践を行う。

8. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
飛鳥から奈良時代にかけての政治の動向及び社会・文化の特色についての基本的な事柄を東アジア世界との交流と関連付けて概観し、その知識を身に付けた上で諸資料を活用して歴史的事象の探究方法を身に付けている。	飛鳥から奈良時代にかけての政治の動向及び社会・文化の特色から課題を見出し、東アジア世界との交流と関連付けて多面的・多角的に考察した過程や結果を適切に表現している。	飛鳥から奈良時代にかけての政治の動向及び社会・文化の特色を意欲的に捉え、東アジア世界との交流と関連付けて課題を見出し、その解決に向けて主体的に追求しようとしている。

9. 単元の構成：全4時間（本時 4/4）

時間	目標	学習活動
1	中学までの知識に上乘せして、大化の改新とは何かを改めて理解することができる。また、「改新の詔」を読んでどのような内容か適切に読み取ることができる。さらになぜ中大兄皇子は蘇我氏を滅ぼし、何の目的で改新政治を行ったのかを自分の言葉で表現できる。	7世紀の目まぐるしく変化する東アジア情勢を捉え、国内政治と関連付けることで中央集権国家の確立の必要がせまられ、改新政治が展開された理由を多面的・多角的に考察する。また、「改新の詔」の史料を活用して歴史的事象を追求する。
2	天智天皇・天武天皇・持統天皇の3天皇がそれぞれ展開した事業を整理して、理解することができる。	天智・天武・持統朝でなされた政策や都の変遷を各天皇ごとに整理する。
3	大宝律令の完成によって確立した官制の特色を理解できる。	大宝律令の完成によって法治国家となり、天皇を中心とした中央集権の官僚制の国家体制が機能していたことを概観し、その特色を理解する。
4 (本時)	律令国家のもとでの身分制やそれに応じた民衆の負担を理解した上で、戸籍の史料を的確に読み取り必要な情報を取捨選択することができる。	律令国家のもとでの身分制やそれに応じた民衆の負担を理解し、習得した知識を応用し、グループで協力し合いながら史料の内容を的確に読み取り、設

	<p>できる。さらに班別学習では協力して主体的かつ的確に設問に答えることができる。</p>	<p>問の解決に向けて主体的に取り組む。</p>
--	---	--------------------------

10. 本時の目標

<p>① 律令国家のもとでの身分制やそれに応じた民衆の負担を理解できる。(知識・技能)</p> <p>② 戸籍の史料を的確に読み取り、必要な情報を取捨選択することができる。(思考・判断・表現)</p> <p>③ 班別学習では協力して主体的に史料を読解し、意見交換をして設問に的確に答えることができる。(主体的に学習に取り組む態度)</p>

11. 本時の展開

時間	段階	学習活動・予想される生徒の反応	教師の働き掛け
2分	導入	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業の進め方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前半は板書中心の基礎的知識の習得、後半は習得した知識を応用させ、「下総国葛飾郡大嶋郷嶋俣里 戸籍」を読んでワークシートの設問に答えさせる。
23分	展開①	<ul style="list-style-type: none"> ・板書をする。 ・身分制は図録51ページを参照して良民と賤民（五色の賤）に分けられていたことを確認する。 ・戸籍・計帳が作成されていたことを知る。 ・口分田が班給される条件を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身分に応じて班給される口分田が異なることから律令下における身分制から学習する。 ・戸籍は6年ごと、計帳は毎年作成されていたことを強調する。 ・あくまで戸籍が作られた当時の6歳以上の男女に口分田が与えられていたことを注意するよう促す。

		<ul style="list-style-type: none"> 具体的な税制は要点ノートを用いて学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 要点ノートだけでは不十分であると感ずる点はメモを取らせながら解説する。
20分	展開②	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとに着席してワークシートに取り組む。 「下総国葛飾郡大嶋郷嶋俣里 戸籍」721（養老5）年を読み解く。 ワークシートの設問に答える。 	<ul style="list-style-type: none"> 予め生徒には班ごとの着席の仕方を伝えておく。 史料は図録50ページからの引用であるが、高校2年生でも読めるよう一部の旧字は新字に改めた。 班別学習中は机間巡視をして生徒に助言を与える。
5分	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの設問の答え合わせを行う。 ワークシートを回収する。 	<ul style="list-style-type: none"> 設問1・2は答えの根拠となる部分を簡潔に解説して答え合わせを行う。設問3は生徒の発言を促す。

12. 本時の評価

評価規準	「努力を要すると判断される」状況の例	指導の手だて
<p>〈知識・技能、思考・判断・表現〉 律令国家のもとの身分制やそれに応じた民衆の負担を理解した上で、戸籍の史料を的確に読み取り必要な情報を取捨選択している。</p> <p>〈主体的に学習に取り組む態度〉 班別学習では協力して主体的に史料を読解し、意見交換をして設問に的確に答えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 習得した知識を応用することができず、史料を十分に解読することができない。 班別学習に積極的に参加せず、設問に答えることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間巡視を行いながら習得した知識を改めて整理できるよう助言する。 何が分からないのかを聞いて、必要に応じた助言を与える。

公民科 学習指導案

- 1 日 時 令和 年 月 日 () 限
- 2 指導学級 普通科 3年 組 文系選択 名
- 3 教科・科目 公民 政治・経済
- 4 使用教材 教科書 東京書籍『政治・経済』
副教材 浜島書店『最新図説 政治・経済』
引用資料
①WFP「ハンガーマップ・ライブ」
URL:https://ja.wfp.org/publications/hankamatsufu-0
②農林水産省「穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移」
URL:https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_zyukyu_kakaku/
③国立社会保障・人口問題研究所「世界人口の推移と推計」
URL:https://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/P_Detail2023.asp?fname=T01-09.htm
④フードマイレージ資料室「栄養不足人口の推移」
URL:https://food-mileage.jp/
⑤講談社 SDGs by C-station「拡がりを増す、肉食による持続可能性への課題」
URL:https://sdgs.kodansha.co.jp/news/knowledge/41031/
⑥消費者庁「エシカル消費とは」
URL:https://www.ethical.caa.go.jp/ethical-consumption.html
⑦農林水産省「アニマルウェルフェアについて」
URL:https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/animal_welfare.html
⑧志賀泰夫、伊藤かおる、今山玲、山本真奈未、松浦晶央「アニマルウェルフェアに配慮された牛肉の購買行動に関する日本・スイス・中国の3カ国比較」『日本畜産学会報』93巻4号、2022年、pp.331-346
- 5 単 元 B グローバル化する国際社会の諸課題 (2)グローバル化する国際社会の諸課題の探究

6 生徒の実態

「政治・経済」の全単元は既習となっている。1学期にはPBL（問題解決学習）の形式の授業も実践しており、資料読解の活動や協働活動も経験している。しかし、複数の統計資料を関連付けて分析・考察する活動や、論文を読解する活動の経験は乏しい。

大項目Bの中項目(2)では、持続可能な国際社会づくりについて、多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方について自分の考えを説明、論述することが想定されている。そこで、本実践では食糧問題を教材とし、貧困削減や社会の発展との調和といった観点を踏まえて課題解決にあたるPBLの実践をとおして、資料読解の力や、資料をもとに分析・考察する力の育成を図りたい。

7 単元の目標

- (1) 食糧問題の現状に関する知識やエシカル消費に関する知識を持ち、食糧問題と個人の消費行動のかかわりについて理解するとともに、食糧問題に関する統計資料やグラフ、文字資料から必要な情報を適切に読解することができる。(知識・技能)
- (2) 食糧問題の原因とその解決に向けた個人の消費行動のあり方について考察・判断し、その結果を適切に表現することができる。(思考・判断・表現)
- (3) 他の生徒の取組や意見に触れることで、自身の学習活動のあり方を改善するために自己調整しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

8 単元の評価規準

知識・技能 【知】	思考・判断・表現 【思】	主体的に学習に取り組む態度【態】
食糧問題の現状に関する知識やエシカル消費に関する知識を持ち、食糧問題と個人の消費行動のかかわりについて理解している。食糧問題に関する統計資料やグラフ、文字資料から必要な情報を適切に読解することができる。	食糧問題の原因とその解決に向けた個人の消費行動のあり方について考察・判断し、その結果を適切に表現することができる。	食糧問題の原因とその解決に向けた消費行動のあり方について関心をもち、意欲的に追究しようとしている。

9 単元の構成

時	ねらい・学習活動	観点別の学習状況の評価と方法
1	○食糧問題の原因の一つである食肉の生産について理解する。 ・引用資料①から、食糧問題に関する現状を把握する。 ・食糧問題がなぜ生じているのかについて、引用資料②・③・④の読解をとおして考察する。 ・引用資料⑤から、肉食の普及による家畜の増加と、飼料の需要増加が食糧問題の一因であることを理解する。	知・思・態 学習活動において取り組ませる課題(ロイロノートで授業中に提出)

	<ul style="list-style-type: none"> 食糧問題の解決のために、1人の消費者として食肉を購入する際に意識すべきことについて考察する。 	
本時	<ul style="list-style-type: none"> 食糧問題の解決に向けた個人の消費行動のあり方について、資料の読解をとおして考察する。 引用資料⑥・⑦から、エシカル消費、アニマルウェルフェアの概念を理解する。 引用資料⑧を読解することをとおして、「環境負荷の低い食肉生産のあり方」と「アニマルウェルフェアや環境負荷を意識した食肉購入の観点」を理解する。 食糧問題の解決のために、1人の消費者として食肉を購入する際に意識すべきことについて再び考察する。 	知・思・態 学習活動において取り組ませる課題(ロイロノートで授業中に提出)

10 本時の目標

- (1) エシカル消費やアニマルウェルフェアの概念を理解するとともに、環境負荷の低い食肉の生産方法について知識を習得するとともに、論文など文字資料や統計資料をもとに必要な情報を適切に読解することができる。
(知識・技能)
- (2) 食糧問題の原因とその解決に向けた個人の消費行動のあり方について考察・判断し、その結果を適切に表現することができる。
(思考・判断・表現)
- (3) 他の生徒の取組や意見に触れることで、自身の学習活動のあり方を改善するために自己調整しようとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

11 本時の評価

評価規準	評価基準	
	A 十分満足できる B 概ね満足できる C 努力を要する	
資料の読解をとおして環境負荷の低い食肉の生産方法を理解し、食肉を購入する際に、家畜の飼育方法や飼料といった考慮すべき観点を挙げている。	A	環境負荷の低い食肉の生産方法について理解し、食肉を購入する際に、家畜の飼育方法や飼料といった考慮すべき観点を挙げている。
	B	環境負荷の低い食肉の生産方法について理解しているが、食肉を購入する際に、家畜の飼育方法や飼料といった考慮すべき観点を挙げることはできていない。
	C	環境負荷の低い食肉の生産方法について十分に理解していない。
	Cと判断される生徒に対する指導の手立て	
授業で提示した資料を読解するうえでのポイントを示す。		

12 授業の計画

学習活動	教師の働きかけ及び指導上の留意点	評価
導入 (3分)	<ul style="list-style-type: none"> 前時に課した課題「食糧問題を解決するために、私たちは食肉の購入をする際にどのようなことを判断材料とするべきか？」の回答を電子黒板で示す。 	
展開1 (7分)	<ul style="list-style-type: none"> インターネットの記事を読ませることで、単に食肉の消費を抑制するだけでなく、エシカル消費の観点を持った消費行動が必要であることを認識させる。 エシカル消費、アニマルウェルフェアについて説明する。 学習課題を提示する(①食糧問題の解決に対応した、環境負荷の低い食肉生産のあり方について理解しよう、②「食糧問題を解決するために、私たちは食肉の購入をする際に、どんなことを意識するべきか？」について考えよう)。 	
展開2 (23分)	<ul style="list-style-type: none"> 論文資料の読解に取り組ませ、「環境負荷の低い食肉生産のあり方」を書き出させる。 	<p>【知】 資料の読解をとおして環境負荷の低い食肉の生産方法や、食肉購入に求められる観点を理解している。</p> <p>【思】【態】 食肉を購入する際に、家畜の飼育方法や飼料といった考慮すべき観点を挙げている。</p>
展開3 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> 論文資料にある表の読解に取り組ませ、アニマルウェルフェアや環境負荷を意識した食肉購入の観点として考えられるものを書き出させる。 	
まとめ (12分)	<ul style="list-style-type: none"> 課題「食糧問題を解決するために、私たちは食肉の購入をする際にどのようなことを判断材料とするべきか？」に取り組ませる。 提出された課題を電子黒板で示し、それぞれの生徒の意見を全体に共有する。 	

数学科 学習指導案

〇〇県立〇〇高等学校
 指導教諭 〇〇〇〇 先生
 授業者 〇〇〇〇

- 1 日 時 令和 4年 6月 1日(水曜日) 6限 (14:15~15:05, 50分)
- 2 指導学級 普通科 2年 2組 36人(男子 20人, 女子 16人)
- 3 教科・科目 数学・数学Ⅱ
- 4 使用教材 教科書 数学Ⅱ Advanced (出版社 東京書籍)
副教材 NEW ACTION LEGEND 数Ⅱ+B (出版社 東京書籍)
- 5 単元名 第2章 図形と方程式 第3節 軌跡と領域
- 6 単元の目標 (1) 軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めたり、簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができるようにする。
(2) 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。

7 生徒の実態

2学年の理系クラスで、通常の授業は習熟度別でクラス展開がなされているが、今回の授業では合同で行う。授業中の例題や練習問題には積極的に取り組む様子が見られる。また、分からないところは互いに聞きあい、学びあいがしやすい関係性ができている。

8 単元の評価規準（評価の観点別の「おおむね満足できる」状況）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めることができる。 ・ 簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、よりよく問題を解決することができる。 ・ また、図形の性質や位置関係を考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的根拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

9 単元の構成（全6時間）（太枠の第3時が本時）

時間	目標	学習活動
1～2	条件と軌跡の方程式の関係を理解することができる。条件を満たす点の軌跡の方程式を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 条件を満たす点を取り、その条件を満たす軌跡の予想を立てる。 ・ 与えられた条件を満たす軌跡を求める。
3	不等式と不等式の表す領域の関係について考察することができる。不等式の表す領域を図示することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不等式の表す領域を図示する。 ・ 与えられた領域から、それを満たす不等式を立てる。
4～6	連立不等式の表す領域を図示することができる。連立不等式の表す領域を用いて、事象について考察することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連立不等式の表す領域を図示する。 ・ 点がある領域内を動くとき、1次式や2次式の最大値・最小値を求める。

10 本時の目標

- ・ 領域における、1次式や2次式の最大値・最小値を求めることができる。
- ・ ICTを活用し、条件を満たす場合を考察・判断することができる。
- ・ 平面図形の関係を考察し、数学的に表現できる。

11 本時の展開

※**知**：知識・技能 **思**：思考・表現・判断 **主**：主体的に学習に取り組む態度

時間	教師の働きかけ	生徒の活動	指導上の留意点・評価
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題を提示する 		
	<p>問：連立不等式 $x - y + 2 \geq 0$, $2x + y - 8 \leq 0$, $x + 2y - 4 \geq 0$ に対して次の問いに答えよ。</p> <p>(1) 連立不等式の表す領域を図示せよ。</p> <p>(2) 点(x, y)が(1)の領域内を動くとき、$x + y$の最大値・最小値、およびそのときのx, yの値を求めよ。</p> <p>(3) 点(x, y)が(1)の領域内を動くとき、$x^2 + y^2$の最大値と最小値、およびそのときのx, yの値を求めよ。</p>		
			<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が、主体的に学びあいができるよう促す。
展開1 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・領域を図示する際に記入が必要な点の確認をする。(x切片、y切片、交点、直線の式、境界線について) 	<ul style="list-style-type: none"> ・(1)を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図を大きくかくよう伝える。 <p>知 連立不等式の表す領域を図示することができる。</p>
展開2 (7分)	<ul style="list-style-type: none"> ・$x + y = k$と置いたときに、この式の図形的な意味を確認する。 ・どの点で、最大・最小となるか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業内容の確認。 ・(2)を解く ・GRAPESによって、最大・最小となる点を確認する。 ・$x + y$の最大値・最小値および、その(x, y)の値を、代入によってkの値を求める。 	<p>思 ICTを用いて、$x + y$が最大・最小となる点を考察することができる。</p> <p>知 $x + y$の最大値・最小値を求めることができる。</p>
展開3 (23分)	<p>発問(初見の問題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・$x^2 + y^2$の最大値・最小値はどのように求められるか。 <p>発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・$x^2 + y^2 = k$とおくと、この式がもつ図形的な意味とは何か。 ・円としての特徴を確認する。 ・$x^2 + y^2$がどのような時、最大となるか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(3)を解く。 ・$x^2 + y^2 = k$の図形的な意味を考える。 ・GRAPESによって、$x^2 + y^2 = k$がどのように変化していくのか、最大となるのは、どのような時か確認する。 	<p>主 ICTを積極的に活用し、問題の解決に役立てようとしている。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> • $x^2 + y^2$がどのような時、最小となるか確認する。 • 円$x^2 + y^2 = k$と、直線$x + 2y - 4 = 0$が接するときに、最小値kを取ること気付かせる。 • 円と直線が接するときの関係式が2つあることを確認する。 (判別式、$d=r$) • 円の中心と接点を結ぶ直線が、$x + 2y - 4 = 0$と垂直に交わることに気付かせる。 • 2直線$x + 2y - 4 = 0$と、$y = 2x$の交点から、最小となるときの(x, y)の値を求めさせる。 • 2つの求め方があることを示す。 	<ul style="list-style-type: none"> • $x^2 + y^2$の最大値および、その(x, y)の値を、代入によって求める。 • GRAPESによって、$x^2 + y^2$が最小となるのは、どのような時か確認する。 • $x^2 + y^2$の最小値および、その(x, y)の値を求める。 	<p>☒ ICTを用いて、$x^2 + y^2$が最大・最小となる点を考察することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ICTの作業後は、タブレットを閉じさせる。 • 早く解けた生徒には、別の方法で解いてみることを促す。 • 生徒の進捗を確認して、ヒント等を伝えていく。 <p>☒ $x^2 + y^2$の最大値・最小値および、そのときの(x, y)の値を求めることができる。</p> <p>☒ 図形の関係性を考察し、より良い求め方を判断できる。</p> <p>☒ 平面図形の公式を用いて計算ができる。</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 本時の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 本時に学習した内容を確認する。 	

12 本時の評価

評価規準	「努力を要する」状況と判断される例	指導の手立て
<ul style="list-style-type: none"> • 領域を図示することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 領域を図示することができない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 領域を図示するポイントを伝える。
<ul style="list-style-type: none"> • ICTを用いて、求める式の最大・最小となる点を考察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> • ICTを活用しようとしめない。 • 求める式の最大・最小となる点を考察することができない。 	<ul style="list-style-type: none"> • $x^2 + y^2 = k$が何を表しているか確認する。 • パラメータを動かしてみることを促す。
<ul style="list-style-type: none"> • 領域における、1次式や2次式の最大値・最小値を計算できる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 判別式や、$d=r$を用いた計算ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 該当する教科書のページを示し、公式を思い出させる。

理科（生物基礎） 学習指導案

〇〇県立〇〇〇高等学校

指導教諭：〇〇〇先生

授業者：〇〇〇〇

1. 日 時 令和4年6月10日（金曜）3限（11：20～12：10，50分）

2. 指導学級 普通科1年7組41人（男子17人，女子24人）

3. 教科・科目 理科・生物基礎

4. 使用教材 教科書 生物基礎（東京書籍）
副教材 新課程版 スクエア 最新図説生物（第一学習社）
新課程 リードα生物基礎（数研出版）
課題プリント

5. 単元名 第1編 生物の特徴 2章 生物とエネルギー 2節 生体内の化学反応

6. 単元の目標

- (1) 代謝におけるエネルギーの流れや酵素の性質，呼吸と光合成のしくみを理解し，基本的な知識を身に付けるとともに，科学的に探究するために必要な実験や観察に関する操作や記録などの基本的な技能を身に付けることができる。（知識・技能）
- (2) 生物とエネルギーの関係から問題を見いだして自分の言葉で表現するとともに，見通しをもって実験や観察を行い，得られた結果を既習事項と関連付けながら分析して解釈し，考察することができる。（思考・判断・表現）
- (3) 代謝や酵素，呼吸と光合成などの生物現象に主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究することができる。（主体的に学習に取り組む態度）

7. 生徒の実態

生徒は問題の解答をGoogle formに入力したり課題プリントの問題を解くなど，予習をして授業に臨んでいる。授業中は私語はせず前を見て私の話を聞いたり，適宜ノートを取りながら学習に取り組んでいる。班活動では課題プリントの問題について教科書や資料集を活用し，班員と相談しながら協働的に取り組み，自分なりの解答を考えている。

8. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
代謝におけるエネルギーの流れや酵素の性質，呼吸と光合成のしくみを理解し，基本的な知識を身に付けようとしているか。また，科学的に探究するために必要な実験や観察に関する操作や記録などの基本的な技能を身に付けようとしているか。	生物とエネルギーの関係から問題を見いだして自分の言葉で表現しようとしているか。また，見通しをもって実験や観察を行い，得られた結果を既習事項と関連付けながら分析して解釈し，考察しているか。	代謝や酵素，呼吸と光合成などの生物現象に主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしているか。

9. 単元の構成（全6時間）

時間	目標	学習活動
1～2	生物は代謝によって生命活動に必要なエネルギーを得ており，そのエネルギーの受け渡しにATPが用いられていることを理解することができる。また，代謝とATPの関係をエネルギーの流れに注目して説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生命活動にエネルギーが利用されていることを学ぶ。 ・ATPの構造を学ぶ。 ・代謝における同化と異化の違い，独立栄養生物と従属栄養生物の違いを学ぶ。 ・代謝によるエネルギーの流れを理解する。
3 (本時)	生体内ではたらく触媒である酵素の性質を理解することができる。また，酵素と無機触媒の反応の様子を比較しながらその違いについて説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・触媒について学ぶ。 ・酵素の性質を学ぶ。 ・酵素と無機触媒の違いを学ぶ。
4～6	呼吸と光合成のしくみを理解し，どのようにエネルギーが変換されているか説明することができる。また，生物がどのようにして呼吸や光合成のしくみを獲得していったかを細胞内共生説を踏まえて理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロメーターを用いた実験を行い，マイクロメーターの使い方を習熟し，倍率との関係を考察する。 ・呼吸と呼吸におけるエネルギーの流れを理解する。 ・光合成と光合成におけるエネルギーの流れを理解する。 ・呼吸や光合成を生物がどのように獲得したのかを細胞内共生説から理解する。 ・細胞内共生説がなぜ支持されているのかを実験結果をもとに考察する。

10. 本時の計画

(1) 本時の目標

- ・触媒とは何かを理解し、生体触媒である酵素の性質を説明することができる。また、実験を見て酵素と無機触媒の違いについて考察することができる。

(2) 本時の展開 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 主：主体的に学習に取り組む態度

時間	教師の働きかけ	生徒の活動	指導上の留意点・評価
導入 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ○触媒について説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・触媒とは何か ・(余裕があれば)活性化エネルギーについて ○酵素の性質について説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・酵素と基質について ・酵素は何でできているか ・酵素の触媒作用について ・基質特異性について 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容を確認する。 ・ノートをとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学での既習事項(アミラーゼによるデンプン分解)を例に出す。 ・触媒には生体触媒と無機触媒があるということを説明する。 ・酵素の触媒作用や基質特異性は図で説明する。 知 ：酵素の性質を理解しているか。
展開 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ○過酸化水素の分解反応について復習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・二酸化マンガンのについて ・カタラーゼについて ○過酸化水素の分解反応について実験を見せる。 <ul style="list-style-type: none"> ・触媒を二酸化マンガにしたとき ・触媒をタヌキの肝臓(カタラーゼ)にしたとき ・触媒を加熱したタヌキの肝臓にしたとき ・(余裕があれば)反応が終了した試験管について、どうすれば反応がまた復活するか質問する。その際「①過酸化水素を増やす、②二酸化マンガまたは肝臓を増やす」の2択を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机を動かして班の形にする。 ・試験管の様子を観察する(泡がでているか)。 ・線香の様子を確認する(酸素が発生しているか)。 ・肝臓を加熱した場合はどうなるか確認する(泡がでているか、線香の様子はどうか)。 ・肝臓を加熱すると反応が見られないのはどうしてか考察する。 ・(余裕があれば)反応を復活させるにはどうすればよいか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学での既習事項(酸素の発生方法)と関連付ける。 ・酵素はタンパク質であることを強調する。 ・課題プリントの問題と関連付ける。 知 ：実験を通して、カタラーゼと二酸化マンガンの反応の違いを理解することができるか。 思 ：タヌキの肝臓を加熱すると反応が見られないのはなぜか考察できるか。 主 ：主体的に授業に参加し、自分の考えを発言し、議論を深めているか。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○班活動について <ul style="list-style-type: none"> ・班活動の様子を観察し、問題へのヒントや全体説明を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題プリントの問題に取り組む。特に基本課題の(6)、(8)、発展課題の(1)、(6)について班で考える。 	思 ：無機触媒と酵素の違いを説明することができるか。 主 ：主体的に授業に参加し、自分の考えを発言し、議論を深めているか。

(3) 本時の評価

評価規準	「努力を要する」状況と判断される例	指導の手立て
<p>【知識・技能】 ・酵素の性質を理解できたか。 ・実験から酵素と無機触媒の違いを理解できたか。</p>	<p>酵素と基質の関係や基質特異性について理解できていない。</p>	<p>・重要語句は丁寧に説明する。 ・酵素の基質特異性について図を用いて説明する。</p>
<p>【思考・判断・表現】 酵素と無機触媒の違いを説明することができたか。</p>	<p>・化学反応を促進させるという触媒の役割しか理解できていない。 ・タヌキの肝臓を加熱したときの反応の原因を考察できていない。</p>	<p>酵素と無機触媒の具体例を挙げ、それらを用いた演示実験を見せる。</p>
<p>【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に授業に参加し、自分の考えを発言し、班での議論を深めることができたか。</p>	<p>・班での議論に参加できていない。 ・議論や思考を途中で止めて分からないままになっている。</p>	<p>議論が止まっている場合は、つまずいている部分にヒントを与えて議論を促す。</p>

英語 学習指導案

1 学校の現状

本校は明治 年 月に開校し、今年度創立 周年、来年度で創立 周年を迎える。各学年 学級の計 学級の編成である。理数科では2年次よりサイエンスコースとメディカルコースのいずれかを生徒が選択し、各自が研究テーマを設定して課題研究に取り組んでいる。平成 25 年にSSH（スーパーサイエンスハイスクール）校に指定され、平成 30 年に2期目の指定を受けている。現在3期目の認定に向けて授業改善に学校一体となって取り組んでいる。

- 2 対象学年 普通科 1年 組 (40人) 月 日 () 限
理数科 1年 組 (20人) 月 日 () 限

3 当該教科における「見方・考え方」

外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」である。

- 4 単元名 英語コミュニケーション I
Unit 6 What are the qualities of a good leader?
(ENRICH LEARNING English Communication I 東京書籍)

5 本単元を通じて「育成したい資質・能力」

ネルソン・マンデラの伝記を通して、その生涯と不屈の精神を理解し、複雑な現代社会において求められるリーダー像、またリーダーに必要な資質を各自が自分の英語で表現できることを目指す。

6 指導目標

- (1) 新出語彙、文法項目（分詞構文／関係副詞 where [when/why]）を理解し、オンライン百科事典の伝記などを通して、優れたリーダーシップをもつ人物の経歴を学ぶ。
(知識・技能)
- (2) 新出語彙、文法項目（分詞構文／関係副詞 where [when/why]）を用い、優れたリーダーが備えている資質を説明する。
(思考・判断・表現)
- (3) グループワークやペアワークに積極的に取り組み、互いに学び合おうとする。
(主体的に学習に取り組む態度)

7 指導計画

- (1) 全体の指導計画（全 10 時間 本時は太枠）

時限	指導のねらい	主な学習活動	留意点
1	単元に対する興味を喚起し、背景知識を活性化する。	・返答、あいづちの表現を用いた会話練習 ・教科書本文につながるリスニング活動	・会話練習における生徒の授業時のやり取りを観察し、評価する。
2・3	教科書本文(前半)の内容、およびターゲットとなる	・新出語彙の習得 ・本文の内容理解のための	・「書くこと」「読むこと」「聞くこと」については、

	文構造や表現を理解する。	Q-A 活動 ・内容定着のための音読活動	ワークシートへの記述、ペアワークの様子を観察し、評価する。
4・5	教科書本文(後半)の内容、およびターゲットとなる文構造や表現を理解する。	・新出語彙の習得 ・本文の内容理解のためのQ-A 活動 ・内容定着のための音読活動	
6	教科書の内容を理解した上で、自分の英語で表現する。	・写真やキーワードを用いたリテリング活動 ・マンデラ氏の特筆すべき点に関する英文執筆	・本文の内容をリテリングする際に、マッピングを通して要点を把握するよう指導する。 ・マンデラ氏の特筆すべき点についてのワークシートへの記述で「書くこと」を評価する。
7・8	優れたリーダーが備えている資質を説明する。	・紹介したい人物についての英語での伝記執筆	・紹介したい人物について、時系列や要点を意識し、相手に伝わりやすい英語で書くように指導する。
9	優れたリーダーが備えている資質を説明する。	・自分が伝記を執筆した人物についての発表(経歴・リーダー性)(個人発表) ・求められるリーダーとしての資質の発表(グループ発表)	・平易な英語表現を用い、声量やアイコンタクトなどを意識して、自分が伝記を執筆した人物について発表するよう指導する。 ・グループ内でそれぞれが紹介した人物に共通する点を見つけたり、意見を深めたりするなどして、現代社会に求められるリーダーとしての資質をグループでまとめるよう指導する。
10	ターゲットとなる文法項目を理解する。	・分詞構文／関係副詞 where [when/why] に関する問題演習	・ターゲットとなる文法項目を用いて短い文を書くことができるよう指導する。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・分詞構文、関係副詞 where[when/why]を用いた文の形・意味・用法を理解している。(知識) ・リーダーシップに関連した語彙や表現を用いるなどし 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある人物を紹介するために、関連のある情報を時系列で書いたり、略歴を紹介したりして、読み手を意識しながら簡潔かつ正確に紹介文を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある人物を紹介するために、関連のある情報を時系列で書いたり、略歴を紹介したりして、読み手を意識しながら簡潔かつ正確に紹介文を書こうとしている。

<p>て、人物の略歴を紹介する適切な方法を理解している。(知識)</p> <p>・ある人物について、時系列で書いたり、略歴を紹介したりしながら、関連のある情報を簡潔かつ正確に原稿に書く技能を身に付けている。(技能)</p>		
---	--	--

8 本時の学習活動

(1) 本時における授業改善のポイント

- ・自分が紹介する人物について、相手に伝わるように、声量や平易な英語表現を用いることを意識する。(学習者)
- ・他の生徒が紹介する人物についての説明を聞き、要点を理解して、英語で質問・応答ができるようにする。(学習者)
- ・現代社会に求められるリーダーに必要な資質について、グループで話し合い、意見をまとめることができるように、議論をしやすい雰囲気作りに努める。(授業者)

(2) 授業展開

段階 (時間)	指導のねらい	学習活動	留意点
導入 (10分)	会話練習での表現などを再度確認することで、本時の主活動である人物紹介にスムーズに接続する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ Review (5分) ペアで本単元の単語を出題し合う。 ・ Warm-up (5分) 本単元で扱われている会話表現を用いてペアで人物の紹介を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペアで前時までに学習した単語やフレーズの問題を出題し合うよう指示する。 ・ 取り組みの様子を観察する。(知・技) ・ 電子黒板を用いて生徒に紹介させる人物を提示する。 ・ 発言や取り組みの様子を観察する。(思・判・表)
展開1 (15分)	英語を用いて「話すこと」「聞くこと」を重点に、自分が調べた人物について紹介をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4人1グループを作り、1人あたり2分間で自分が伝記を執筆した人物について、経歴やリーダー性などを、要点をまとめて発表する。 ・ 紹介された人物についての質疑応答を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 執筆した伝記の原稿を読み上げるのではなく、経歴において特筆すべき点、資質に絞って発表するよう指示する。 ・ 発表の様子を観察する。(思・判・表) ・ 必要に応じてメモを取りながら、級友の発表を聞くよう指示する。
展開2 (10分)	リーダーとして求められる資質にどのような違いや共通点があるかをグループで協議し、自分と異なる意見を通して自分の考えを深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内でそれぞれが発表した人物に共通する点(特性や資質など)を話し合う。(5分) ・ 共通点をもとに、現代社会で求められるリーダ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで協働して共通点や求められる資質について話し合い、ホワイトボードにまとめるよう指示する。 ・ グループでの話し合い

		一としての資質についてグループでまとめる。 (5分)	に積極的に関わっているかを観察する。(主)
展開3 (15分)	声量やアイコンタクト、平易な英語を用いて、「相手に伝わる英語」を発表を通して意識させる。	・各グループでまとめた、求められるリーダーとしての資質を発表する。	・グループのメンバーそれぞれが発表に関わるよう指示する。 ・誤りを犯すことを恐れず、聞き手を意識して発表するよう促す。 ・聞き手を意識して、声量や平易な英語を意識して発表しているかを観察する。(思・判・表)
まとめ (5分)	本時の授業を通して、自分の考えにどのような変化が生じたか、より良く生きるために自分はどのように行動すべきかを考えさせる。	・授業用ハンドアウト(資料1)に、リーダーに必要なと思われる資質、そしてその中で自分が獲得したい資質を英語で記述する。(提出課題)	・グループでの話し合いや、他のグループの発表を聞いて、自分の考えをさらに深めるよう促す。 ・次時で授業用ハンドアウトを提出するよう連絡する。 ・取り組みの様子を観察する。(主) ・発表に用いた執筆済みの伝記原稿(資料2)を提出させる。 ・紹介した人物に関連する情報を、略歴や時系列を整理して、読み手を意識しながら簡潔かつ正確に紹介文を書こうとしているかを評価する。(主)

(3) 本時の評価

評価規準	A 十分満足できる B 概ね満足できる C 努力を要する	
(思考・判断・表現) ある人物を紹介するために、関連のある情報を時系列で書いたり、略歴を紹介したりして、相手を意識しながら簡潔かつ正確に伝えている。	A	紹介したい人物に関する情報や略歴を、時系列を意識し、相手を意識しながら平易な英語で分かりやすく伝えている。
	B	紹介したい人物に関する情報や略歴を、時系列を意識し、相手を意識しながら、一部理解できない箇所もあるが分かりやすく伝えている。
	C	紹介したい人物に関する情報や略歴が時系列順にまとめられていない。わかりやすく伝えることができない。
Cの生徒への手立て	その人物が何を成し遂げたのか、どのような資質を持っているのかの2点に絞って紹介するよう促す。	

Unit 6 What are the qualities of a good leader?

知識	I can understand the career of a person with good leadership skills.
技能	出来事を読み取る・意見を表明する・分詞構文・関係副詞
思考・判断・表現	I can write a short biography of a person with good leadership skills.
主体性	リーダーに求められる資質について英語で話し合えることができる。

<Warm-up!> Do you know those people? Why do you think they are famous? Let's discuss with your partner! (You can see pp. 168-169.)

The person () is _____ .
Do you know anything about him/her?

【 ① 】 He/She (Tell about the person!) .

【 ② 】 (Give any other reaction!) .

【①】 聞き手の表現	No, I've never heard of... (・・・のことはいったことがないな。) No, not really. (よくわからないよ。) Yes, isn't he/she...? (うん、彼/彼女って・・・だよな。)
【②】 リアクション	Really? (本当?) Right. (その通りだね。)
【③】 聞き手の表現	Oh, wow. (わあ、すごいんだ。) Ah... (ああ、なるほど。) Oh, yeah. (そうだね。)

<Listening 1> Think by yourself!
Q: Which leader would you choose to write a biography about? And why?



<Reading 1-1> Read the passage of pp.85 (Early life - Student years and protest) and answer the following questions.

- <True or False?>
- Nelson Mandela was born and raised in Johannesburg, South Africa. ()
 - At the University of South Africa, Mandela experienced a lot of racial discrimination. ()
 - He was arrested for the first time in 1956. ()
 - In 1982, Mandela opened an office by himself to save other black South Africans. ()
 - Mandela was imprisoned three times in total. ()

<Word Scanning> Read the passage as fast as possible and pick up the words!

Japanese	English
王族 (2語)	
〜族 (1語)	
長距離の (1語)	
学位 (1語)	
アパルトヘイトという人種差別的な政策 (5語)	
〜に反対するデモを行う (2語)	
検閲課長 (3語)	
裁判にかけられる (3語)	
戦い続ける (2語)	

- <Answer in English!>
- Who raised Nelson Mandela?

 - Where did he suffer a lot of racism from the other students?

 - Why did Mandela and his partner open their law office?

class	No.	name

<Reading 1-2> Read the passage of pp.86 (Prison time) and answer the following questions.

O-<True or False?>

1. Mandela damaged his eyesight because the living environment at the prison was terrible. ()
2. Mandela continued to study even in the prison. ()
3. He studied the language spoken by many prisoners. ()

O-<Word Scanning> Read the passage as fast as possible and pick up the words!

Japanese	English
ごぞ(3語)	
～に移住される(3語)	
歴上重要な(3語)	
解放される(2語)	

O-<Answer in English!>

- 1) What language did he study in prison?

- 2) Who spoke that language?

<Reading 1-3> Read the passage of pp.87 (After prison - Awards and honors) and answer the following questions.

O-<True or False?>

1. Mandela became president of South Africa in 1991. ()
2. Many black South Africans did not support the national team Springboks thinking it was a white man's sport. ()
3. Mandela supported South Africa's national rugby team by wearing its uniform. ()
4. Under apartheid, occupations and residences of the citizens were determined by their races. ()

O-<Word Scanning> Read the passage as fast as possible and pick up the words!

Japanese	English
～の権威(3語)	
多民族民主主義(3語)	
～よりもむしろ(2語)	
決議(2語)	
人権保障制度(5語)	
～によって決められる(3語)	

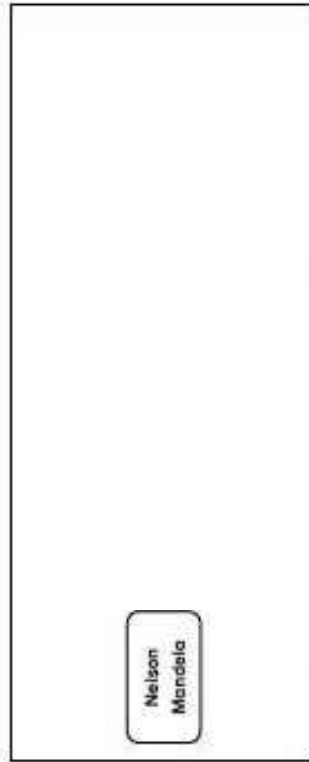
O-<Answer in English!>

- 1) How long did it take for him to become president of South Africa after he was released from prison?

- 2) When he became president of South Africa, what did he call for?

- 3) What does "the Rainbow Nation" stand for?

O-<Retelling> You are Anika. You have learned about the life of Nelson Mandela. You are going to tell about it to your classmates. (※Before your retelling, try mapping!)



What personality of Mandela do you think made him so outstanding?



What qualities do you think are necessary for leaders?
